

夢はでっかく 根は深く

「学校長だより No. 4」

平成28年5月11日 倉敷市立柳井原小学校

ここにしか咲かない花は「私」

ある方の紹介で「みやざき中央新聞」の社説をまとめた「日本一心を揺るがす新聞の社説」という本を読みました。素敵な内容があったので、ご紹介したいと思います。

コブクロの「ここにしか咲かない花」という歌からです。

「何もない場所だけど

ここにしか咲かない花が・・・

心にくくりつけた荷物を静かに下ろす場所」



この歌を聴いた、臨床心理士の長谷川さんは、この歌詞から「家族という場所」をイメージしました。「我が家に生まれたこの子は、『ここにしか咲かない花』という気持ちがあれば、子どもに伝わります。」小学生の子どもにとって、子どもらしく生きるということは「甘える場」があること。厳しさの中にも、良い意味での「逃げ場」があること。「小学生でいい子というのは、精神発達上おかしいのです。子どもは自己中心的な面があり、失敗をすることがあり、それがその時期の本当の姿なのです。」長谷川さんはそう伝えています。

悩んだり失敗したり、その中でたくさんの経験を重ね、時に怒られながら、分別のある大人に育っていく。「家族という場所」にしか咲かない「ここにしか咲かない花」 大切な命・わが子・・・

わが子が成長して迷った時にこの歌が聞こえて欲しいですね。「あの優しかった場所は今でも変わらずに僕を守ってくれていますか？」 答えは、いつまでも「YES」です。

春の遠足から 5月2日(月)

春の遠足は、「歩く遠足」です。雲ひとつない青空のもと、「愛宕山」に行きました。縦割り班で、「ウォークラリー」と班ごとに考えた遊びをしました。

ウォークラリーの問題は「この神社の名前は？」という簡単なのもあれば、「このベンチの横の長さは何メートル？」というように、測り方を考えるような問題もありました。「風船をみんなで割る」というのもあり、みんなで楽しい時間を過ごしました。

1学期の縦割り班のメンバーです。

〇〇さん
△△さん
□□さん
◇◇さん
▽▽さん
〇〇さん
△△さん
□□さん
◇◇さん
▽▽さん
〇〇さん
△△さん
「シュワッチ!
かっこいい1班
参上!」



〇〇さん
△△さん
□□さん
◇◇さん
▽▽さん
〇〇さん
△△さん
「遠足は休んだ
けど、〇〇さん
も仲間だよ!」





● ●さん
 「ウォークラリーでは優勝したよ！」



● ●ん
 ● ●さん
 「おにごっここの時の藤澤先生は速かった！」

全校朝礼（5月）のお話から

「だまってすみずみまでそうじをしよう」これが、本校の清掃の目標です。昼休み後の15分間、縦割り班で掃除をしています。下級生は掃除の仕方とともに、「黙って掃除をする」という姿勢を学んでいきます。決められた場所を、少ない人数でしないといけないのですから、そういった面からも、おのずと一人一人ががんばるようになります。

昔、インドにシュリハンドクというお坊さんがいました。物覚えは悪いし、仕事はできないので悩んでいました。ついに、自分がいやになって、お釈迦様のところに『もうお坊さんを辞めたいのです』と相談に行きました。

お釈迦さんは、『きれいにしましょう』と、彼に一本のほうきを持たせました。

シュリハンドクは『きれいにしよう。きれいにしよう』と言葉を繰り返しながら、お寺の庭を掃き続けました。暑い日も、雨の日も・・・

ある日『庭がいつもきれいだね』参拝に来たお客さんから声をかけられました。シュリハンドクは、その言葉がうれしくて、もっと頑張って掃除をしました。また、ある日は『きれいで気持ちがいいよ。ありがとう』そんなお礼の言葉を聞きました。シュリハンドクは、ますますうれしくなり、『みんなが気持ちよくお参りできるようにするために、どうやったらもっともってきれいに掃けるか』と考えるようになりました。

毎日、毎日、考えながら、ひたすら庭をはき続けました。

やがて、シュリハンドクは知ることができました。みんなが気持ちいいようにと掃除をすることが、いつの間にか、自分に目標や自信をもたせてくれたこと。また、庭を掃いてきれいにすることで、『自分の心が成長している』『自分の心も掃いてきれいにしている』ことに気が付くことができたのです。

掃除をがんばっている皆さんの姿は、素晴らしいです。きれいにすると、みんな心地よく過ごせます。そして、掃除をしている時や終わった後、気持ちよくなっている自分を感じることができると思います。みなさんは心の掃除もしているのです。

